

ダイワ通信と石野製作所、回転すし迷惑対策で共同開発

2023/3/6 19:14 | 日本経済新聞 電子版

防犯・監視カメラの販売を手掛けるダイワ通信と、回転すしコンベヤー最大手の石野製作所（金沢市）は6日、回転すし店での迷惑行為を検知する人工知能（AI）カメラシステムを共同開発すると発表した。AIカメラとコンベアを連携させた迷惑行為の検知システムなどの開発や実証実験を進める。



注文したすしが新幹線の模型で届く、石野製作所の「特急レーン」

ダイワ通信のAIによる顔認証や行動検知などのシステムと、石野製作所のコンベヤー技術を組み合わせる。詳細は今後両社で詰めるが「スピード一日に進めたい」（ダイワ通信）意向だ。監視用カメラは世の中に多く出回っているが「飲食業界の知見が豊富な石野製作所と協力することで使いやすいシステムを目指す」という。

石野製作所は回転すしコンベヤーのシェア7割を占める。回転すしを庶民の身近な食文化にした「自動給茶装置付寿司コンベア機」を始め、自動皿洗浄機や鮮度管理システムなど時代が求める発明を繰り返し、回転すし店の現場を支えている。

近年は非接触ニーズの高まりや人手不足、食品ロス削減のために開発した「届けるレーン」の需要が伸びている。本来は「すしが回ってきて『わ一つ』とときめき、子どもも喜ぶのが回転すしの原点」（石野晴紀社長）だが、このところの迷惑行為を受け「来店客や店の役に立てる選択肢を増やしていきたい」と石野社長は語っていた。

回転すし業界では、客が未使用の湯飲みをなめたり、レーン上のすしにわさびを乗せたりする映像が拡散し社会問題になっている。すしチェーンの~~銚子丸~~は4月26日までに回転レーンを使った商品提供を終え、客が注文した商品を職人らが届ける「フルオーダーシステム」に切り替える。~~くら寿司~~は不審な行為をAIで検知するシステムを全店舗に導入したと発表している。

回転すしは魚介類が豊富で、ものづくりも盛んな日本で生まれた独自の食文化だ。回らなくなるのは寂しいが、最先端技術を活用した変革が急ピッチで進んでいる。（佐々木たくみ）

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.